



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	はじめに：生涯発達に沿った教育内容の展開を再考する(fulltext)
Author(s)	大伴, 潔
Citation	東京学芸大学附属特別支援学校研究紀要(56): 1-1
Issue Date	2012-07
URL	http://hdl.handle.net/2309/135658
Publisher	東京学芸大学附属特別支援学校
Rights	

はじめに

—生涯発達に沿った教育内容の展開を再考する—

学校長 大伴 潔

子どもの育ちと学びを支える教育は 2 つの観点から捉えることができます。一人の子どもにおける身体や心といった発達の多面性という「横の軸」と、ライフステージに沿った展開である「縦の軸」を想定するというものです。幼児期を例にとると、身体的技能を高めて身の安全を確保し、生活習慣を確立し、ことばを増やして事物についての概念を形成し、家族を中心として人との情緒的な結びつきを高めていきます。これらは、運動、生活習慣、言語、認知、情緒・社会性という発達の領域に対応しますが、このような発達の領域や課題が教育課程を編成する際のひとつの拠り所となるのは言うまでもありません。その一方で、子どもが学齢期にさしかかると、親への依存から集団の中での自立が大きな課題となり、身体的技能や生活習慣、言語なども、学級における同年代の仲間関係の中で培われていくようになります。中学部段階では思春期特有の課題も生じるなど、子どもの生涯にわたる各発達段階という「縦の軸」の観点は、私たちにさらに柔軟な教育観を求めます。幼児期に培われたスキルや自信、他者とのかかわりのスタイルといったものは、小学部段階でクラス単位の活動や学習を行う際の礎になります。反対に、自立した生活を送り、社会の一員として人とかかわりをもつという成人期の将来像から降ろしてくると、社会的な人格をもって行動したり、規範意識を高めたりするといった高等部段階での教育の重要性が浮き彫りにされます。このように、各発達段階に特有の課題に留意しつつ、将来像を見通したり、そこから目標を降ろしたりすることによって、有効な生涯発達支援の道筋が描けると考えます。そのなかで、一人ひとりの発達課題に沿って焦点化したかかわりを個別に配慮するとともに、仲間関係に支えられて自信を深めつつ学ぶというように、学びと育ちのさまざまな領域が複合的に絡みあう場を保障していきます。

このような生涯発達を見通した教育についての考え方は、本校の教育課程に反映されています。本校では、平成 12 年度から 15 年度の研究において、大幅な教育課程の見直しを行いました。教育課程を生活支援・余暇支援・就労支援・学習支援、さらにはこれらにまたがるコミュニケーション支援の 5 つの支援内容区分を設定しています。また、各区分で目指すところを「支援内容配列表」として整理し、幼稚部から高等部までの教育課程の展開を具体化しています。この枠組みの編成から約 10 年が経過しました。学習指導要領が約 10 年ごとに改訂されているように、この数年はもう一度原点に立ち返って、子どもの将来像と学び・育ちの過程にさらに即した内容へと高めていく好機であると考えます。今回の研究協議会では、その初年度の成果をご報告いたします。

本年度の研究を遂行するにあたり多くの先生方のご指導ご助言を頂きましたことを感謝申し上げます。研究を実施することで得た知見を積み上げ、在校生に還元していくことによって、在校生の皆さんと保護者の方々への感謝の意を形にしていきたいと思います。